



横浜市立  
二つ橋小学校

Futatsubashi Elementary School

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/futatsubashi/>

# 学校だより

12月号

令和5年11月30日

## ふたりの「ももたろう」は、どうやったら仲良くなれるのだろう？

校長 青木 和裕

本校では、12月1日から人権週間が始まります。今年も、朝会で、絵本「ふたりのももたろう」（木戸 優起作 キタハラ ケンタ絵 ドリームインキュベータ）の読み聞かせを行いました。

皆さんもよく知っている、昔話の『ももたろう』。川から流れてきた桃を拾い上げるおばあさん。その桃から生まれた赤ちゃんを、おじいさんとおばあさんは大切に育てます。すくすくと成長した「ももたろう」は、悪いことをしている鬼を退治するために、鬼ヶ島に出かけます。途中、イヌ、サル、キジを仲間にして、最後は見事に鬼をやっつけ、人々は平和に暮らせるようになりました、という話です。もし、川からもう一つの桃が流れ、その桃が、鬼が住む島に流れ着き、その桃から生まれた赤ちゃんが、鬼に育てられたとしたら・・・



この絵本は、鬼退治をする「ももたろう」と、鬼に育てられた「ももたろう」の二つの物語を楽しむことができます。鬼に育てられた「ももたろう」は、自分の頭にツノがないことに気付き、自分だけみんなと違うと、涙を流します。その様子を見た鬼たちは、「ちがっていても いいじゃないか」「ももたろうの ちょんまげも すてきだぜ」と、慰め、励まします。みんなと違うところ（自分らしさ）を大切に、一人ひとりの好きなことが尊重される、この鬼たちの島。自分の得意なことで助け合い、みんなで幸せに暮らす島。恐ろしくて、むごいことを平気でするというイメージで見えてしまいがちな鬼ですが、先入観で人を見てはいけないということにも、改めて気付かせてくれます。そして、鬼退治に来た「ももたろう」と、鬼に育てられたもう一人の「ももたろう」が出会ったら、仲良くやっていけるのでしょうか。二人の「ももたろう」が出会ったところで、このお話は終わります。その後は、読者の想像にゆだねられています。自分が「ももたろう」だったら、もう一人の「ももたろう」と、どうすれば仲良くできるのだろう。自分の生活経験と結び付けながら、子どもたち自身に、想像の翼を広げてもらいたいです。

自分の好きなこと、得意なことは、子どもによって、さまざまです。何がきっかけで、何に興味をもってくれるのかも、分かりません。子どもの無限の可能性を広げ、よさを伸ばす学校、お互いのよさが認め合える、尊重し合える学校を、これからも地域・保護者の皆様とともに、創っていきたいです。